

学習支援ニーズと自律的動機づけとの関係 — 中国語学習者を対象として —

伊藤 崇達

The Relationship between Learning Support Needs and Autonomous Motivation :
An Analysis of Japanese Learners of Chinese

Takamichi ITO

Accepted November 28, 2012

抄録 : 本研究の目的は、中国語学習者を対象として、学習支援ニーズと自律的動機づけとの関係について調べることであった。予備調査に加えて、日本の大学生1年生から3年生（18歳から21歳まで）を対象に質問紙による調査を実施した。因子分析の結果から「会話」「語彙」「文化・歴史」の学習支援ニーズが存在することが明らかになった。相関分析を行ったところ、これらのニーズと取り入乐的調整、同一化的調整、内発的動機づけの間に正の相関が認められた。最後に、“felt needs”と“normative needs”の観点から実践への示唆について議論した。

索引語 : 学習支援ニーズ, 自律的動機づけ, 中国語学習者

Abstract : The purpose of this study was to examine the relationship between learning support needs and autonomous motivation in Japanese learners of Chinese. After a preliminary survey, Japanese university students in grades one through three (i.e. from 18 to 21 years old) completed questionnaires. A factor analysis of the data identified three factors relating to learning support needs: “conversation”, “vocabulary”, “culture and history”. Correlation analyses indicated these learning support needs were positively related to introjected, identified, and intrinsic motivations. Implications for practice were discussed from the view of “felt needs” and “normative needs”.

Key Words : learning support needs, autonomous motivation, learners of Chinese

1. 問題と目的

教育や学習研究においてニーズの視点が求められるようになってきているが（e.g. 石隈, 1999 ; 日本教育心理学会, 1996 ; 真城, 2003）, 実証的な検討が重ねられてきているかといえは必ずしも十分とはいえない現状がある（伊藤, 2012）。ニーズの概念をいかに定義するかについては様々な議論があるが

(cf. 伊藤, 2012 ; Dean (2010 / 福士訳, 2012)), Griffith (1978) や Pearce (1995) などは、個々人が必要と感じる“felt needs”と社会的に要請される“normative needs”の両者の区別を提起している。“felt needs”は、支援が必要であると感じる個人の欲求に相当するものであるが、一方、“normative needs”のほうは、外部の権威や規範に従って必要とされると考えられるニーズであり、専門家や研究者の専門的知識や価値志向性などに基づいてその内実が規定されてくるものである。本研究においてもこの図式に従って、学習者と支援者の両者の立場からニーズをもとにした実践をいかに構想していけばよいかについて示唆を得ることをめざす。

支援ニーズに関する心理学による実証研究は、学習のどのような領域においてもほとんど取り組まれていないのが現状といつてよいと思われるが、本稿では中国語学習を取り上げ、検証を試みることにする。外国語学習についてみると、英語や日本語学習に関する研究は盛んになされてきているが、それらに比して中国語学習に関する心理学研究はほとんどみあたらない(安, 2003)。日本人大学生が第二外国語として中国語を学習していく際には、多くの困難を抱えることについて指摘がなされているが(永倉, 2008)、学習者の立場からみたときにどのような支援ニーズを抱えているかを明らかにしておく必要があるだろう。中国語は高等学校までの教育段階においては教科としてはカリキュラムに含まれておらず、ほとんどの日本人大学生にとって新奇で未知な学習の経験であり、そのため中国語学習に特有の、また、多様なニーズを有しているものと推測される。本研究では、中国語の科目を履修している者を対象に探索的な検討を試み、どのような支援ニーズの要素が存在し、また、“felt needs”と“normative needs”の視点から中国語学習の支援ニーズの実態を明らかにすることを目的とする。

ところで、伊藤(2011)は、人の自律的な学びのあり方に実証的に迫ろうとする自己調整学習(*self-regulated learning*)の見地(伊藤, 2009 ; Schunk & Zimmerman, 2008 ; Zimmerman & Schunk, 2001)から支援ニーズと学習への動機づけとの関係について調べている。青年を対象とした調査の結果から、支援ニーズをいかに満たすかということと学習への自律的な動機づけとの間に結びつきがみられることについて示唆を得ている。安(2003)は、第二外国語としての中国語を学ぶにあたって統合的動機(e.g. 中国語に興味があるから)、道具的動機(e.g. 中国語ができると就職に有利であるから)、消極的動機(e.g. 単位が取りやすいから)の3つからなることを明らかにし、これらの学習動機が成績に至るまでの学習過程に関するモデルを検証している。本研究では、さらに動機づけのあり方について精緻な検討を進めていくために自己決定理論(Ryan & Deci, 2000)に従って4つの側面を仮定して調査を行うこととした。自己決定理論によれば、動機づけは自律性(自己決定性)の程度に従って外的調整、取り入れ的調整、同一化的調整の各段階に区分され、外的調整から内発的動機づけに至るまで次元上の両極をなすことが想定されている(具体的な内容は後掲の Table 1 を参照のこと)。本研究では、中国語の学習支援ニーズと外的調整、取り入れ的調整、同一化的調整、内発的動機づけの4種類の動機づけの間にどのような関連が認められるかについて明らかにすることと、“felt needs”と“normative needs”の2つの側面のニーズの有無によってこれらの動機づけに違いがみられるのかどうかについて明らかにすることを目的とした。

2. 方 法

予備調査の協力者

兵庫県内の 4 年制大学に在籍する日本人大学生で、当該大学において中国語入門科目をすでに履修している受講生を対象とした。学部 1 年生（男性 3 名，女性 2 名），2 年生（男性 24 名，女性 31 名），3 年生（男性 4 名，女性 7 名）の総計 71 名に対して調査の協力を求めた。平均年齢は 19.42 歳，標準偏差は 0.77 であり，年齢の範囲は 18 歳から 22 歳であった。

予備調査の内容

中国語の学習支援ニーズに関する調査項目を作成することを目的として，上記の協力者に対して中国語を初めて学ぶにあたって特に困っていること，学習上，支援を要すると感じていることについて自由に記述してもらうよう求めた。ここで得られた回答をもとにして質問項目の作成が進められた。加えて，中国語のネイティブ・スピーカーであり，実際に中国語の科目を担当している大学教員に指導者の立場から学習支援ニーズについて助言を受け，また，中国語初級学習者が抱える課題についてまとめている永倉（2008）の研究知見をふまえて内容の追加を行い，最終的に 26 の質問からなる項目を作成した。

予備調査の時期及び手続き

2012 年 5 月－6 月において上記の内容を含む予備調査を実施した。大学での講義の時間の中で一斉に質問紙の配布を行い，回答を求めた。実施に要した時間は 10 分程度であった。

本調査の協力者

兵庫県内及び京都府内の 4 年制大学に在籍する日本人大学生で，当該大学において中国語入門科目の受講生を対象とした。学部 1 年生（男性 42 名，女性 39 名），2 年生（女性 1 名），3 年生（男性 4 名，女性 2 名）の総計 88 名に対して調査の協力を求めた。平均年齢は 18.50 歳，標準偏差は 0.71 であり，年齢の範囲は 18 歳から 21 歳であった。

本調査の内容

学習支援ニーズ 予備調査において作成された 26 項目からなる質問（Table 3 を参照）について「あてはまらない（1 点）」「あまりあてはまらない（2 点）」「どちらともいえない（3 点）」「ややあてはまる（4 点）」「あてはまる（5 点）」の 5 件法で回答を求めた。

4 種類の動機づけ 速水・田畑・吉田（1996）や岡田・中谷（2006）をもとに中国語学習に適用できるよう表現上の修正を行った。「外的調整」「取り入的調整」「同一化的調整」「内発的動機づけ」の各 2 項目，計 8 項目で構成され（Table 1 を参照），回答方法，得点化の方法は，上記と同様であった。

本調査の時期及び手続き

2012 年 7 月において上記の内容を含む予備調査を実施した。大学での講義の時間の中で一斉に質問紙の配布を行い，回答を求めた。実施に要した時間は 15 分程度であった。

3. 結果と考察

4 種類の動機づけに関する検討

4 種類の動機づけの各項目の平均値と標準偏差を Table 1 に示す。自己決定理論では、外的調整、取り入れ的調整、同一化的調整、内発的動機づけのそれぞれの動機づけが、自律性の観点から次元の連続体上に並ぶものと考えられている (Ryan & Deci, 2000)。Table 2 に示すように近い位置関係にある動機づけの間には正の相関がみられており、シンプレックス構造をなしていることが確認できた。それぞれ 2 項目の平均値を算出し、4 種類の動機づけ得点として以降の分析を進めることとした。

Table 1 4 種類の動機づけに関する質問項目の *Mean* (*SD*)

項目内容	<i>Mean</i> (<i>SD</i>)
外的調整	
周りからやれと言われるから	2.19 (1.06)
勉強しておかないと周りがうるさいから	2.31 (1.12)
取り入れ的調整	
勉強しておかないと不安だから	3.17 (1.29)
勉強しておかないと後で困るから	3.38 (1.17)
同一化的調整	
中国語を学ぶことに意義があると考ええるから	3.83 (1.22)
中国語を学んでおけば、将来役に立つと考ええるから	3.98 (1.21)
内発的動機づけ	
中国語を学ぶことが楽しいから	3.39 (1.24)
中国語を学ぶことがおもしろいから	3.33 (1.31)

Table 2 4 種類の動機づけの間の相関係数

	外 的	取り入れ	同一化	内発的
外的調整	—	.26 *	-.02	.05
取り入れ的調整		—	.35 **	.36 **
同一化的調整			—	.60 **
内発的動機づけ				—

** $p < .01$, * $p < .05$

中国語の学習支援ニーズに関する検討

中国語の学習支援ニーズについて尋ねた 26 項目について最尤法・Promax 回転による探索的因子分析を行った。固有値の推移並びに解釈可能性から 3 因子が最も適切な因子数と判断された。回転後の因子負荷量を Table 3 に示す。

第 1 因子に高く負荷している項目は、「話すリズムのコツを知りたい」「実用的な表現について知りたい」「日常生活で使う話し言葉や若者が使う言葉について知りたい」「会話や聴き取りのスピードに慣れたい」など、日常的な会話において有用な表現を身につけ、流暢に話ができるようになることを求める学習支援ニーズと考えられ、「会話」と命名することとした。第 2 因子については、「有気音と無気音の発音の区別ができるようになりたい」「日本語にない母音や子音の発音ができるようになりたい」といった語の発音に関するニーズに加えて、「品詞の種類やカテゴリーごとに新しい単語を学びた

Table 3 中国語の学習支援ニーズに関する項目の *Mean* (*SD*) と因子分析の結果 (因子パターン)

項目内容	会 話	語 彙	文化・歴史	<i>Mean</i> (<i>SD</i>)
第1因子 ($\alpha = .94$)				
話すリズムのコツを知りたい	.97	-.12	.06	4.25 (1.08)
実用的な表現について知りたい	.89	.00	-.01	4.33 (1.05)
声調と声調のつなげ方についてマスターしたい	.83	.04	-.05	4.14 (1.09)
慣用表現について知りたい	.78	-.15	.23	3.96 (1.20)
声調が間違っていたら正してほしい	.76	.20	-.20	4.39 (0.91)
日常生活で使う話し言葉や若者が使う言葉について知りたい	.76	-.25	.25	4.02 (1.25)
会話や聴き取りのスピードに慣れたい	.69	.03	.12	4.32 (1.10)
漢字だけを見て読めるようになりたい	.66	.25	-.06	4.25 (1.19)
ピンインが正しく読めるようになりたい	.54	.36	-.18	4.26 (1.09)
長い文章の意味の区切りについてわかるようになりたい	.51	.41	.05	4.06 (1.15)
ピンインの書き取りができるようになりたい	.36	.32	-.01	3.91 (1.25)
第2因子 ($\alpha = .95$)				
有気音と無気音の発音の区別ができるようになりたい	-.02	.87	-.03	3.78 (1.26)
日本語にない母音や子音の発音ができるようになりたい	.08	.87	-.04	3.94 (1.29)
簡体字の正しい書き方について知りたい	-.12	.84	.15	3.82 (1.20)
品詞の種類やカテゴリーごとに新しい単語を学びたい	-.13	.82	.26	3.61 (1.36)
発音が似た単語の覚え方について知りたい	.01	.79	.09	3.74 (1.37)
中国語で書く練習をしたい	-.05	.62	.35	3.76 (1.28)
同じような意味をもつ単語の使い分けを知りたい	.37	.60	-.10	4.04 (1.20)
ネイティブの先生から発音を学びたい	.14	.60	.16	3.95 (1.31)
文法についてマスターしたい	.50	.50	-.06	4.00 (1.26)
第3因子 ($\alpha = .80$)				
中国語検定の対策となる情報がほしい	-.07	.16	.72	3.18 (1.57)
身近な中国の文化について知りたい	.33	-.20	.70	3.60 (1.32)
中国の歴史や地理について知りたい	-.01	.11	.55	3.17 (1.37)
簡単に歌えそうな歌を教えてほしい	-.01	.10	.52	3.01 (1.41)
入門者にお薦めの本を教えてほしい	.01	.22	.52	3.49 (1.36)
中国語の漢字と日本語の漢字の違いについて知りたい	-.04	.34	.44	3.51 (1.26)
因子間相関	語 彙	.64	.50	
	文化・歴史		.58	

い」「発音が似た単語の覚え方について知りたい」「同じような意味をもつ単語の使い分けを知りたい」といった単語の習得に関する項目が高い因子負荷量を示していた。語の発音や意味をつかみながら確実に語彙の習得を図っていくことに関する学習支援ニーズであり、「語彙」と命名することとした。さらに、第3因子については、「身近な中国の文化について知りたい」「中国の歴史や地理について知りたい」「簡単に歌えそうな歌を教えてほしい」といった項目が高い因子負荷量を示しており、中国の文化や歴史について知り親しむことを求める学習支援ニーズと考えられ、「文化・歴史」と命名することとした。これらの3因子の因子間相関をみると、相互に比較的強い関連が認められた。

当該因子に .50 以上の因子負荷量、他の因子には .40 以下の因子負荷量を示している項目を取り上げて α 係数を算出した。Table 3 に示しているとおり、高い信頼性がみられることが確認できた。因子ごとにこれらの項目の平均得点を算出し、以下の分析に用いた。

中国語の学習支援ニーズと4種類の動機づけとの関連

中国語の学習支援ニーズと4種類の動機づけの間の相関係数を算出した結果を Table 4 に示す。外的調整を除いて、いずれの間にも比較的強い相関が認められた。外的調整ではなく、取り入乐的調整、同一化的調整、内発的動機づけのように中国語の学習に対して積極的な動機づけが高い人ほど、「会話」「語彙」「文化・歴史」のいずれの学習支援ニーズも高いことが明らかとなった。しかしながら、取り入乐的調整と内発的動機づけでは、学習支援ニーズの意味合いも異なっている可能性があり、語学の習得レベルなどの指標とも併せて今後のさらなる検討が求められる。

Table 4 中国語の学習支援ニーズと4種類の動機づけの間の相関係数

	会 話	語 彙	文化・歴史
外的調整	-.13	.03	-.02
取り入乐的調整	.29 **	.46 **	.37 **
同一化的調整	.69 **	.60 **	.62 **
内発的動機づけ	.58 **	.60 **	.61 **

** $p < .01$

normative needs 及び felt needs の有無による4種類の動機づけの差異

normative needs 及び felt needs の観点から分析を試みるために、中国語をネイティブとし、日本の4年制大学において中国語の科目を担当している大学教員2人に対して、先の26項目のそれぞれについて中国語初級者にとってどのくらい学習支援が必要な内容だと考えるか、評定を求めた。「とても支援が必要な内容である」「ある程度支援が必要な内容である」「どちらともいえない」の3件法による評定結果をもとに、2人がともに必要な内容であると判断した項目を normative needs として以下の検討を進めることとした。評定者の人数が少ないため、参考までの分析とする。どのような内容が normative needs であるかについて今後さらなる検討が求められることはいうまでもない。

Table 5 には、以上の手順をもとに中国語の学習支援において normative needs と felt needs に相当するものと考えられた項目をリストにして示してある。これらの項目の平均得点を算出し、4.00 以上を「normative needs 保有群」及び「felt needs 保有群」とし、4.00 未満を「非 normative needs 群」及び「非

felt needs 群」として、これらの両群の間に 4 種類の動機づけにおいて差異がみられるかどうかについて検討を試みた。それぞれの平均得点と t 検定を行った結果を Table 6, Table 7 に示しておく。外的調整を除いて、いずれの動機づけにおいても「needs 保有群」のほうが高いということが明らかとなった。

Table 5 をもとに normative needs の内容を詳しく見てみると、慣用表現、声調を正すこと、ピンインが正しく読めること、有気音と無気音の発音、母音や子音の発音など、指導者にとって中国語学習の初級者が身につけてほしいポイントがあげられていると考えられるのかもしれない。一方で、felt needs の内容には、先の分析で第 3 因子にあげられた「文化・歴史」に関することや「話すリズムのコツを

Table 5 中国語の学習支援における normative needs と felt needs

項目内容
normative needs
実用的な表現について知りたい
慣用表現について知りたい
声調が間違っていたら正してほしい
日常生活で使う話し言葉や若者が使う言葉について知りたい
ピンインが正しく読めるようになりたい
長い文章の意味の区切りについてわかるようになりたい
有気音と無気音の発音の区別ができるようになりたい
日本語にない母音や子音の発音ができるようになりたい
発音が似た単語の覚え方について知りたい
同じような意味をもつ単語の使い分けを知りたい
中国語の漢字と日本語の漢字の違いについて知りたい
felt needs
話すリズムのコツを知りたい
声調と声調のつなげ方についてマスターしたい
会話や聴き取りのスピードに慣れたい
漢字だけを見て読めるようになりたい
ピンインの書き取りができるようになりたい
簡体字の正しい書き方について知りたい
品詞の種類やカテゴリーごとに新しい単語を学びたい
中国語で書く練習をしたい
ネイティブの先生から発音を学びたい
文法についてマスターしたい
中国語検定の対策となる情報がほしい
身近な中国の文化について知りたい
中国の歴史や地理について知りたい
簡単に歌えそうな歌を教えてほしい
入門者にお薦めの本を教えてほしい

Table 6 normative needs の 2 群による 4 種類の動機づけの差異

	非normative needs群	normative needs保有群	t 値
外的調整	2.29 (0.91)	2.21 (1.10)	<i>n.s.</i>
取り入れの調整	2.85 (0.93)	3.63 (1.03)	3.67**
同一化的調整	3.21 (1.04)	4.47 (0.90)	6.03**
内発的動機づけ	2.56 (1.03)	4.04 (0.97)	6.90**

** $p < .01$

Table 7 felt needs の 2 群による 4 種類の動機づけの差異

	非felt needs群	felt needs保有群	<i>t</i> 値
外的調整	2.25 (0.85)	2.14 (1.13)	<i>n.s.</i>
取り入れの調整	2.92 (0.92)	3.65 (1.06)	3.30**
同一化的調整	3.20 (1.18)	4.62 (0.58)	6.95**
内発的動機づけ	2.55 (1.08)	4.19 (0.82)	7.68**

** $p < .01$

知りたい」「会話や聴き取りのスピードに慣れたい」「声調と声調のつなげ方についてマスターしたい」といったスムーズな会話に関するニーズがあげられていた。中国の文化や歴史に親しむことは語学の習得には直接的には関わらない内容といえるのかもしれないが、学習者の側が抱く支援ニーズとしては大きな位置を占めているものなのかもしれない。話すリズムのコツやスピードに慣れるといった後者の支援ニーズも学習者の視点からすると切実なものである可能性があり、教授方略としても学習方略としても明示的なものとはなりにくい側面といえるものなのかもしれない。これら以外に felt needs としてカテゴリー化された項目で特徴的なものとしては、「漢字だけを見て読めるようになりたい」「簡体字の正しい書き方について知りたい」「品詞の種類やカテゴリーごとに新しい単語を学びたい」といった支援ニーズがあげられるだろう。これらは日本語をネイティブとする者が抱く支援ニーズといえるものかもしれない。「品詞の種類やカテゴリーごとに新しい単語を学びたい」などは語彙の効果的な習得を図る学習方略の一種であり、義務教育以降の英語学習において馴染んできた学習方略を第二言語学習に転用しようとするところからくるニーズともいえそうである。実際に支援を進めていくにあたっては、支援の対象である学習者が日本語という言語（漢字）をすでに獲得していること、様々な言語学習にまつわる何らかの学習方略のレパートリーを有していることを考慮しておく必要があるだろう。母語の力やすでに身につけている言語獲得に関する学習方略は、別の言語を習得していく際には、促進的な側面もあることが考えられる一方で、新たな学習上の困難やつまずきともなりうる可能性が十分に考えられるため、こうした視点から支援ニーズを汲み取っていく必要があるものと思われる。

支援ニーズに関する心理学的研究はこれまで数多くはなされてきていないが、河内（2008, 2009）は、文科系大学生の統計学の授業に対するニーズについて検討を試みている。そこでは「教授内容へのニーズ」と「授業展開へのニーズ」の 2 つに大別して捉えられている。こうしたニーズの大別は、授業内容の側面と授業方略の側面から授業実践を検討していくための手がかりを与えてくれるものと思われる。normative needs と felt needs という学習者の視点と支援者の視点、学習内容そのものと学習過程に関わるニーズというように多面的に学習支援ニーズの実態について検証を進めていくことで、どのように学習支援をデザインしていけばよいかについてさらに具体的な示唆を得ることが期待できるであろう。

謝 辞

本研究の調査にご協力いただきました大学生の皆様に心より御礼申し上げます。研究を進めるにあたり、王松先生、孫輝先生からご示唆とご支援を賜りました。記して深謝申し上げます。

＊本稿は平成 24 年度科学研究費補助金・若手研究 B による研究の一部である。

引用文献

- 安 寧 (2003). 「日本人大学生の中国語学習における動機づけモデル」『京都大学大学院教育学研究科紀要』 49, 314-326.
- Dean, H. (2010). *Understanding human need: Social issues, policy and practice*. Bristol: The Policy Press.
- (ディーン, H. 福士正博 (訳) (2012). 『ニーズとは何か』 日本経済評論社)
- 速水敏彦・田畑 治・吉田俊和 (1996). 「総合人間科の実践による学習動機づけの変化」『名古屋大学教育学部紀要』 43, 23-35.
- 石隈利紀 (1999). 『学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス—』 誠信書房
- 伊藤崇達 (2009). 『自己調整学習の成立過程—学習方略と動機づけの役割—』 北大路書房
- 伊藤崇達 (2011). 「青年期における親に求める動機づけ支援のニーズと評価」『日本教育工学会論文誌』 35, 1-4.
- 伊藤崇達 (2012). 「学習支援ニーズはいかに捉えられるか—学習支援研究の可能性—」『特別支援教育臨床実践センター年報』 2, 1-12.
- 河内和直 (2008). 「文科系学生における統計教育法の探索Ⅱ—「学生ニーズ」のクラスタリングの検討から—」『立正社会福祉研究』 10 (1), 1-7.
- 河内和直 (2009). 「文科系学生における統計教育法の探索Ⅲ—ニーズ充足と授業満足度の関連の検討から—」『立正社会福祉研究』 10 (2), 19-25.
- 日本教育心理学会 (1996). 『スクールサイコロジスト (学校心理学に基づくスクールカウンセラー) とは』
- 永倉百合子 (2008). 「中国語初級学習における問題点」『実践女子大学 FLC ジャーナル』 3, 83-94.
- 岡田 涼・中谷素之 (2006). 「動機づけスタイルが課題への興味に及ぼす影響—自己決定理論の枠組みから—」『教育心理学研究』 54, 1-11.
- Griffith, W.S. (1978). Educational needs: Definition, assessment, and utilization. *School Review*, 86, 382-394.
- Pearce, S.D. (1995). Needs assessment: Constructing tacit knowledge from practice. *International Journal of Lifelong Education*, 14, 405-419.
- Ryan, R.M., & Deci, E.L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.
- 真城知己 (2003). 『特別な教育的ニーズ論—その基礎と応用—』 文理閣
- Schunk, D.H., & Zimmerman, B.J. (Eds.) (2008). *Motivation and self-regulated learning: Theory, research, and applications*. New York: Lawrence Erlbaum Associates.
- Zimmerman, B.J., & Schunk, D.H. (Eds.) (2001). *Self-regulated learning and academic achievement: Theoretical perspectives*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.